

ひびきあい

vol.53

発行責任者：芹澤 昭仁
編 集 者：小林忠雄・戸田 武夫
〒182-0012 調布市深大寺東町3-10-4
TEL/FAX 042-487-6403

e-mail : jse@jcom.home.ne.jp <http://members3.jcom.home.ne.jp/jse/>

連盟15周年を迎えて（第12回宇都宮大会開催年）

NPO法人全日本シニアアンサンブル連盟理事長 芹澤 昭仁



明けましてお目出とうございます。

連盟発足（平成10年）以来15周年目を迎え、新たな気持ちで再出発いたしましょう！

昨年はアメリカではオバマが辛うじて二期目の大統領を保持したが、中国や韓国でもトップ交代があり、日本も12月に総選挙が行われ、3年半足らずで再び自民党政権になりましたが、日本国の経済・財政の建て直しや外交・安全・防衛の対策等問題山積と言った状況です。

昨年は連盟の大会の無い年でしたが、傘下楽団におかれては、定演などが活発に行われ、市川、市原、横浜、船橋、横須賀などの個性ある演奏会を拝聴し、大変意を強くしました。

昨年連盟が提案したオーケストラ・クリニックは、連盟の存在感や会員皆様に参加のメリットを感じて頂く為めの企画です。引き続き検討して参ります。

今年も又、連盟に新たな会員（楽団）が数箇所で誕生する気運にあることは、誠に喜ばしいことで、千葉県の東部や、特に茨城県まで足を運ばれて、友好楽団の誕生に奮闘されている岡村副理事長には、本当に頭が下がります。

また連盟のイニシアチヴで日中音楽交流プロジェクトを推進しています。昨年の尖閣問題で一時進行が止まっておりますが、辛抱強くその実現を目指してゆきたいと考えます。

傘下団体の皆様！今年は、連盟誕生から丁度15周年目を迎えての記念すべき第12回大会が、宇都宮市で開催されます。

因みに、宇都宮では平成16年第5回大会で大成功を収めた、経験豊富な宇都宮シルバーアンサンブル楽団の皆さんのが、再度ホスト役を勤めて頂きますので、奮つて大会にご参加下さるようご協力をお願いし、新年のご挨拶とします。

♪音楽と私♪

—声との格闘の半生—

私と音楽との本格的な拘わりは大学に入ってからです。

大学は北海道学芸大学（今の教育大学）函館分校小学課程で、音楽が何となく好きだったので音楽研究室に所属させて頂きましたが、音域が狭くて高音を出せない、楽譜は全く読めない、指もさっぱり動かない状態でのスタートでした。指が動かないでハノン（指を訓練するための練習曲）ばかり弾いていたので「ハノン男」というあだ名を頂戴しました。その後、ベートーヴェンのピアノソナタやモーツアルトのレクイエムの素晴らしさを知り、音楽の世界にのめり込んで行きました。

大学卒業後、函館市内の新設校である深堀中学校に赴任し合唱と名曲鑑賞を中心に指導しましたが、赴任3年目の文化祭で演奏したヘンデルの「ハレルヤコーラス」を、当時の藤川光夫校長先生の勧めで卒業式にも演奏しました。8クラス300人の演奏は結構迫力があり、北海道新聞でも紹介されました。しかし、深堀中の生徒の多くが進学している北高で音楽を指導していた寺中哲二先生（大学の先輩）に、「あなたの学校の卒業生は高音が詰まっている」と言わされました。その時は、その意味が分かりませんでした。

7年後に札幌に転勤し、友人の紹介でボイストレーナーの青木先生の指導を受けました。「何か歌って御覧」と言うので歌を歌いだすと、先生は急にゲラゲラ笑いだしてしまいました。そして、「あなた、テナーでしょう。テナーの声はこうなのよ、ホホホホ……」と軽い声を出されましたが、後に、その声は裏声であることが分かりました。

札幌での赴任先は小学校で、学級担任を受け持ったため全教科を指導しなければならず、教材研究に時間を取られて音楽を楽しむゆとりがありませんでした。3年後に意を決して音楽専科を採用している東京の教員採用試験を受け、北海道は在職10年で退職し東京に出てきました。私は音楽一本に絞った指導をしたかったのです。36歳の時です。

東京に出てからも青木先生に教えて頂いた声の練習を続けましたが、初めは喉の詰まつた細い声で歌声としては使い物になりませんでしたので、この声で本を読む練習を始めました。1年程すると軽く伸びのある高音を出せるようになり、声帯が2通りに振動していることが自分の身体ではっきりと分かりました。

2年目の夏、郷里へ帰りこの練習をしていると姪たちが面白がって真似をしましたが、その声は驚くほど美しい声で、正に頭声そのものでした。その秋、甥の吉田明彦君の結婚式がありました。それまで私は、何冊もの発声指導書を読み10年以上も必死に発声練習を続けましたが美しい高音は獲得できませんでしたが、甥は発声指導など全く受けていないのに幅広い音域の豊かな美しい声で自在に歌っていました。そして自分の結婚式で歌を歌いますと、叔父が、「明ちゃんの裏声いいもなあ」と言いました。私は目から鱗が落ちました。甥の伸びのある軽い高音や、私が青木先生に教わった高音は裏声だったのです。

それまで洋楽仲間では、男声の軽く伸びのある高音は頭声（とうせい、Head Voice=頭部によく共鳴した声）と考えていましたが、頭声という専門用語を知らない普通の日本人はその声を裏声と言っていたのです。洋楽の発声理論では、一般的に裏声はファルセツと同義語と考え、本格的発声では使い物にならない声であるというのが定説でした。本来鍛えなければならない声を使い物にならない声であると考えていたのです。

これを契機に、多くの人の声や発声指導書、共鳴に関する文献を調べ、「地声と裏声が声区である、共鳴とは無関係」という内容をプリントして墨田区の音楽専科の方々に配りました。

先生方は、「学界に定説が無いものを小学校の音楽専科が論じたって…」と相手してくれませんでしたが、このプリントが縁でファルセツが発声の出発点であるというフースラーの発声理論を研究している日本声楽発声学会のテキストを入手しました。

足立シニアアンサンブル会長 高橋昭五

そして喉頭の素晴らしい構造を知り驚嘆しました。また声帯は主要部を声帯筋が占め、縁辺部は声帯韌帯で構成されていることを知りました。

しかし上記の経験から、テキストの記述内容に納得できない所があり、原書に当たってみると、フースラーを紹介した須永義雄先生が主要なところを自己流に解釈しており、ファルセツが発声の出発点であるという重要な視点が不明になっていることが分かりました（SINGING : THE PHYSICAL NATURE OF THE VOCAL ORGAN by FREDERICK HUSLER）。

原書を読んで、私なりにフースラーの考えが理解できましたので、

「それは裏声だった一発声のメカニズムに関する考察ー」というタイトルで千部ほど自費出版し、各方面に配りました。私の最初の出版物でした。

東京へ出て3年目の1月のことで、一つの仕事をしたという実感がありました。裏表紙には「この小論を長年の病苦に堪えた母の靈に捧げる」と記しました。母は、私の出産後に体調を崩し、最後の数年間は寝たきりになっていました。東京へ出てこのような仕事が出来たことを報告したかったのですが、母は前年の暮れに他界し、それは叶いませんでした。私が東京へ出ることを告げた時の淋しそうな眼差しが脳裏に焼き付いています。

冊子を郵送してすぐ日本声楽発声学会理事の石塚靖先生から電話があり、「発声開眼である」と言って下さいました。声を発声器官の筋電図で研究していた久留米大学の平野実先生からは長文のお返事を頂き、「大変美しい結論です」とのお言葉を頂き、先生の書かれた貴重な論文を送って下さいました。また、当時の東京都音楽研究員仲間の平野元清先生は、「29ページの冊子に込められた科学的研究姿勢に畏敬の念を抱くものである」と専門誌に紹介して下さり、大学の先輩の木村喜久三先生からは、「これで発声のモヤモヤが消えた」とのお便りを頂きましたが、同期のテノールのA君には理解してもらえませんでした。定説が根本から間違っているという考えですから致し方ありません。慶應大学講師の石井末之助先生は、

「切込みが凄い」と言っておられました。音楽之友社の「音楽教育」にも投稿させて頂き、大きな反響がありました。日本声楽発声学会でも、「声区とアンザックの解釈を巡って」というタイトルで発表させて頂きました。

高音は、「ファルセツ」「支えのあるファルセツ」「純粹の頭声」「充実した頭声」の段階を経て訓練すべきであり、これらの声は全て裏声である趣旨を発表し納得して頂きました。須永先生もその場におられましたが、何も言われず、その後、自らが中心となって設立したこの学会を退会されてしまいました。

小学校歌唱指導の大先輩である伊藤雅子先生から丁重なお便りを頂き、「九州からいらした方が、わざわざ来た甲斐があったと申しておられました」とのことでした。学会理事の宮原卓也先生は、「楳田先生があなたの考えと同じです」と申され、文献を調べようと思い、石井先生の紹介で慶應大学医学部へ行きましたが、「医者でない方は利用できません」と断られ、当たって砕けろの精神で東大医学部へ電話すると、「所属長の依頼があればよろしいです」とのこと。早速、橋本重紀校長先生に依頼文を書いて頂き、夏休みに10日間ほど東大医学部付属図書館で文献研究をしました。そして昭和8年の「大日本耳鼻」に、楳田先生の次のような論文を見つけて愕然としました。

人声ヲ地声ト裏声ノ2種トシ、ソノ中間ニ中声区ヲ置ク。声区ノ區別ハ共鳴腔ノ位置ノ相違デハナク、発声器官ソノモノニアリ、コレハ現今既ニ定説デアル。

私が苦心惨憺してたどり着いた結論が、私の生まれる以前に既に定説として発表され大学の図書館に埋もれていたのです（私は昭和11年生まれです）。

また、昭和18年の「大日本耳鼻」には、切替一郎先生の声帯の振動部位に関する次のような研究がありました。

胸声デノ低音発声時ニハ、声帯ハ細長イ徳利ノ形ヲシテオリ、（中略）頭声デハ、声帯ハ前後ニ明ラカニ伸展サレ幅狭ク平坦デアル。振動部ハ極メテ狭イ縁辺部デ、ソコガ比較的判然ト境サレテ振動スル。

この論文中の胸声・頭声が地声・裏声であることは、当時自治医大に勤務しておられた先生に直接電話で確かめてあります。私は、裏声の訓練の段階で声帯が2通りに振動していると感じましたが、地声では声帯が全体的に振動しており、裏声では声帯の縁辺部の声帯韌帯だけが主として振動していたのでした。このことは、地声と裏声の音域差を考えると納得できます。比喩的に言うならば、声帯には2本の弦があるということです。



《発声理論のまとめ》

1 これまで、声は声帯の発するか細い声を頭や胸に共鳴させて豊かにも美しくもすると考えられていましたが、これは音響学的には全く意味のないことです。声の豊かさ、美しさは頭や胸とは全く関係なく、声帯の振動そのもの（喉頭原音そのもの）が声の良し悪しを決定づけます。声帯の上部体腔（声道）の空気の塊が共鳴体で、声道はホーンの型をしていればそれで十分なのです。今日、プロの声楽家でも鼻に掛かった声を出している人が居ますが、これは声を頭に共鳴させると豊かな声を出せると言う誤った発声理論の犠牲者です。

2 共鳴現象とは、振動数が同じ2つの振動体の一方に振動を与えると、他方の振動体がその振動のエネルギーを吸収して振動する現象です。音叉で考えると、音叉をそのまま振動させても空気に接する面積が小さくて空気を効率よく振動させることは出来ません。即ち大きな音を出すことは出来ません。音叉を共鳴箱に取り付けると急に大きな音になりますが、その分、鳴っている時間が短縮されます。これは、ちょうどコップ一杯の水をチョロチョロ流すか、一度にドバッと流すかの違いに似ています。何れにせよ共鳴現象に努力など必要ありません。私は12年間、声を頭に共鳴させるという無駄な努力をしていたのです。

3 Chest Voice・Head Voiceを地声・裏声と訳さず、胸声、頭声と直訳したこと、及び共鳴現象を全く理解していなかったことが、我が国の発声理論を著しく混乱させていました。

4 声の出し方は、児童、成人男女共に基本的には同一です。地声と裏声を滑らかに繋いで歌えるようになると、幅広い音域の美しい声で歌えるようになります。地声だけの発声では高音が喉の詰まった硬く聞き苦しい声になります。

5 児童の声には性差はなく、地声と裏声の切り替えがスムーズに出来るようになると話し声も鈴のように澄んだ声になり、地声と裏声の区別は全く付かなくなります。これまで、児童発声の現場では頭声的発声という言葉が使われていましたが、概念が曖昧でした。地声と裏声の切り替え点（換声点）は«一点イ音»辺りにありますが、児童の場合は軽いルルル…で歌を歌うだけで多くの場合、地声と裏声を滑らかに繋いで歌えるようになります。しかし普通学級にはどうしても裏声を出せない児童がいますので、地声で楽に歌える音域の楽しいオステイナーなどを用意する必要があります。

6 変声期を過ぎると女性は裏声の音域が広がり、男性では逆に地声の音域が広がります。こうして声に性差を生じ、声の性的魅力が生じます。

7 話し声の乱暴なソプラノは裏声だけで歌を歌っています。美空ひばりは地声と裏声を際立たせた歌い方をします。アルトは地声と裏声を滑らかに切り替える必要があります。成人女子は裏声の音域が広く、笑い声や電話の声などで日常的に裏声を使っていますので、多くの人は高音になると無意識のうちに裏声になっています。このため、これまでの発声理論でも女性は美しい声を獲得できました。女性の換声点は«一点ヘ音»辺りです。

8 リリックテナーやハイバリトンの軽く伸びのある高音は裏声です。これまで成人男子では本来鍛えなければならないファルセットを、本格的な発声では使い物にならない声であると考えていました。声楽の殿堂の入り口を塞いで中に入りなさいという等しい指導をしていたのです。青木先生は、数少ない素晴らしい発声指導者でした。男声の換声点は«一点ハ音»辺りです。

9 太い地声は声帯全体が振動した声で、裏声は主として声帯縁辺部にある声帯韌帯だけが振動した声であると推測されます。比喩的に言うならば声帯には2本の弦があるということです。

10 人類が発声に苦労するのは、比較的低い声だけを多用する言語活動にあると思われます。人類は言葉を獲得する以前は、地声と裏声の融合した幅広い音域の美しい声で愛を交歓していたものと考えられます。このことは、思春期になると若者は愛の歌を歌いたくなること、また歌の曲は今日でも多くが愛の歌であることから推測されます。

興味がありましたら拙著「それは裏声だった—発声理論から恐竜絶滅理論まで—」を贈呈致します。ご一報ください（03-3885-2436）。

児童・成人男女の地声と裏声の一般的な音域(斜線は裏声)

児童

成人女子

成人男子



最近の活動について

アンサンブル シーガル横浜 代表 堀 通能

①はじめに

アンサンブル シーガル横浜は発足後13年を経過しました。現会員23名。弦7名、管13名、キーボード2名、ドラムス1名の編成です。月3~4回のレッスン、年4~5回の演奏会出演を行っています。水曜日のレッスンには皆さん浮き浮きした様子で集まって来ます。

②団運営の取り組み

最近、会員から団運営についての建設的意見が多數提起されるようになりました。そこで、全員会合を何回か開催し意見交換を行い意見集約と意思統一に取り組んできました。すなわち、順次実行に移すもの、現段階では実施困難なため次善の策を検討したもの、団の特性から実施出来ないものなどです。今は取り敢えず落ち着いた運営が出来ていますが、時には話し合いの必要を痛感しました。

③2012年の演奏会

- ・2月 新横浜養護施設訪問演奏
- ・6月 第5回定期演奏会（横浜・杉田劇場）

発足時から「定期演奏会も出来るようにする」が目標でした。今回初めて定期の名を掲げて実施しました。発足以来、杉田劇場で4回の自主演奏会を実施してきましたので、今回は第5回とさせてもらいました。今後2年ごとの開催が目標です。今回の演奏会第2部では、横浜のダンスサークルから10名ほどの賛助出演を得て、ダンスの伴奏をする企画を入れました。舞台を空け演奏は両サイドの花道でやりましたが、音のまとまりの点で反省がありました。

- ・11月 神奈川区民アンサンブルコンサート（横浜市）
神奈川区文化協会器楽部会加盟10団体程の
アンサンブル演奏会。毎年出演しています。
- ・11月 プラザ大師まつりコンサート（川崎市）
川崎市の自治行事に毎年出演しています。

④おわりに

このたび、13年間お世話になりました鎌木 融先生が、11月プラザ大師まつりコンサートを最後に退任されました。シーガルをここまで育てて頂き有難うございました。次期指揮指導者として、平本勝義先生に就任して頂きました。宜しくお願ひ致します。

12月は、納会恒例の、会員のソロ、又はアンサンブルで演奏を披露する団内ミニコンサートを行い、その後の忘年会で盛り上がり2012年を締めくくりました。

今は、3月の神奈川区文化協会20周年記念祭への出演を器楽部会から推薦され、その準備に取り掛かっています。2013年は宇都宮・連盟全国大会を柱にレッスンを続けます。

(第5回定期演奏会)



第1部

美しく青きドナウ ショパンの休日ー別れの曲
MOONLIGHT SERENADE DIANA

第2部

白い恋人たち 碧空/淡き光に 一晩中踊り明かそう
明日があるさ

第3部

日本の調べ 日本叙情歌集 美空ひばりメドレー
見上げてごらん夜の星を 川の流れのように



ダンスサークル「ビオラ」さん賛助出演

(神奈川区民アンサンブルコンサート)



最後に混声合唱「ハーモナイズフォー」さんとコラボ

(プラザ大師まつりコンサート)



(ミニコンサート)



第1回定期演奏会を終えて

船橋シニアアンサンブル 副代表 高萩良郎

去る10月20日(土)、私たち船橋シニアアンサンブルは、船橋市民文化ホールでの第1回定期演奏会を大盛況のうちに終演することができました。

思えば、前年4月に予定されていた演奏会が震災のため、この日まで延期となりましたが、結果的には十分練習を積み重ねることができ、かえって良かったのかなと思っています。

定期演奏会の開催に向けた実行委員会は、役員、指揮者及びコンサートマスターが委員となり約半年前に立ち上りました。委員会では、まず、演奏予定曲目、曲順が決定され、演奏会プログラム全体の構想・流れが検討されました。同時に、今回はゲスト出演者を招くことが決まりました。また、演奏会開催にあたっては、すべての団員がかかわるように役割分担表を作成し、団員各位への協力をお願いしました。演奏会を成功させるために事前に行うべき事柄は数多くありました。特筆すべき事項として、団員によるポスター掲示・チラシ配布とテレビ局録画取材の件を簡単に紹介させていただきます。

先ず、チラシ印刷は10,000部を予定しましたが、団員の配布努力により増刷を含め最終的には11,000部ほどになりました。教育委員会を経由しての市内公民館などへの配布、楽器店ダイレクトメールを利用させていただいての配布、千葉シニア第2回定期演奏会プログラムへの折込などのほか、担当を決めて最寄の団地、公団などへの戸別配布も行いました。

ポスターについても市の公共掲示板への掲示をはじめ、団員の協力を得てイトーヨーカ堂など人が大勢集まる商業施設への掲示も行いました。このような地道な活動が観客動員数にいかに影響を与えたかは、演奏会のアンケート結果でうかがい知ることができました。

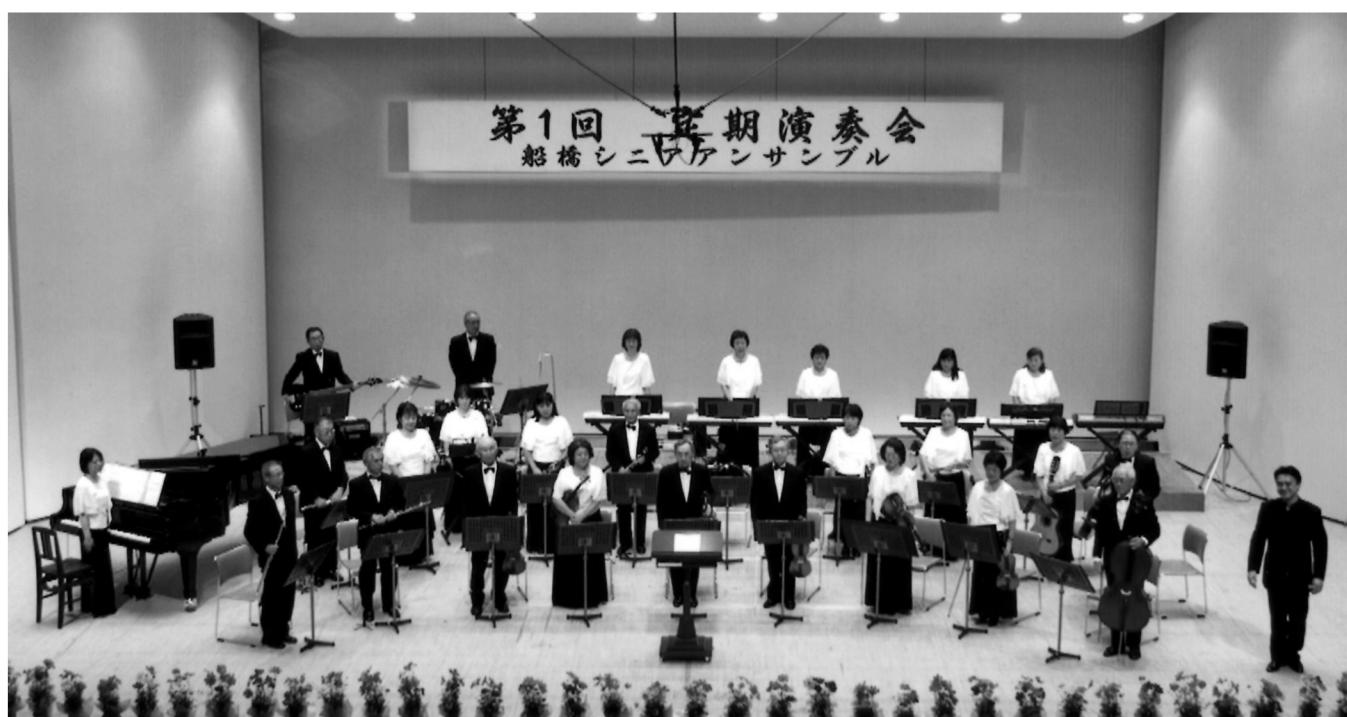
後援依頼の交渉の過程で、JCN船橋習志野担当者から、思いもよらぬ録画取材の相談が飛び込んできました。地域で活躍する団体のイベントをイベントズームアップという1時間番組の中でそのまま放送したいとのことでした。私たちにとつても今後とも地域に根ざした活動を展開する上で頗ってもないことと考え、快く録画取材を受け入れました。演奏会の模様は11月16日から半月間8回にわたり船橋ケーブルテレビで放送されました。

さて、演奏会当日の話になりますが、幸い天候にも恵まれ、入場観客動員数はプログラムの残数から満席を超え1,020名と記録されました。アンケートによれば、多くの方々から演奏内容、選曲、演出、指揮者などへの賞賛をいただきました。

今後は、少しずつフレパートリーを広げ、地域密着の出前演奏を続けながら、來たるべき第2回定期演奏会に向けて、「楽しく、仲良く、いきいきと」練習に励みたいと考えております。

最後に、本演奏会の運営にご協力を賜りましたすべての皆様に、改めて御礼申し上げます。

ありがとうございました。



♪ 楽団紹介 ♪

習志野シニアアンサンブル



全国シニアアンサンブルの皆様

新年あけましておめでとうございます 習志野S Eでございます

本年もよろしくお願ひ申し上げます。

習志野S Eは、人数もパートもまだまだ少ないヨーヨーチ歩きの満1歳になる若輩者です。

現在、鍵盤はK B、P、G各1、管はC L 3、F L 5、S AX 1、弦はV n 6、V l a 1，

C e l 4の編成で、まずは合奏を楽しむのが第1という方針で進んでいます。

幸いなことは、指揮の澤田先生がイベントのたびに、すぐ編曲してくださり、大変助かっています。

更に、ボランティアセンターや各種イベントからの演奏依頼が多く、9月以降毎月1回、12月、1月は各2回、2月は1回予定が入っています。と言いましても、我々の演奏は未熟でもっともっと精進しなければ、人様に聴いていただくには、恥ずかしく申し訳ないと思っています。

施設では我々とそう年も変わらないお年寄りの方々に、演奏をするたび、喜ばれていますが、正直穴があいたら入りたい気持ちです。

先輩諸兄姉のアンサンブルはいずれも何か特色があり、例えば低音やリズムに強いとか、管楽器が美しいなど、多々素晴らしい点が見受けられますが、習志野も何か特色が出せればいいなと思っています。今後の課題としては第1に団員をもう少し増やし、パートを充実させる。第2にメインやサブメインになるようなオリジナル曲をもう少し増やす。

その後、立ち上げ「コンサート」をそろそろ検討したいと思っていますので、皆さま方のご指導ご協力の程、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

習志野シニアアンサンブル 代表 月岡 喜久雄



大作曲家列伝 No. 31

スティーヴン・コリンズ・フォスター（1826～1864）

天才是夭折するといわれますが、歴史に残る作曲家のうち最も早死にしたのは日本の作曲家滝廉太郎で23歳、次はシーベルトの31歳、続いてモーツアルト35歳、パーセル36歳となります。アメリカのフォスターも37歳の若さで世を去りました。

「アメリカ民謡の父」といわれるフォスターは、1826年7月4日アメリカ独立50周年記念日の朝、ペンシルヴァニア州アルゲニー市長の9番目の子供として生まれました。

音楽一家だったフォスター一家で幼いスティーヴンはピアノやハープに合わせて歌う姉たちの歌声を聞いて育ち、いつとはなしにギターを弾きながら自ら作詞作曲をするようになりました。



当時アメリカではミンストレル・ショウといって黒人の扮装をした白人歌手が黒人風の歌や踊りを行うショウが大流行しており、フォスターの歌曲の多くはその出し物として作曲され広く人々に親しまれるようになりました。

今日の明るく楽しいアメリカン・ミュージカルはこのミンストレル・ショウの影響を受けています。

【作品】歌曲「なつかしきケンタッキーの我が家」「夢路より」「金髪のジェニー」ほか

**BEAUTIFUL DREAMER
(SERENADE)**

Moderato

Words and Music by
Stephen C. Foster

The musical score consists of three staves of piano-vocal music. The top staff shows the piano accompaniment with various chords and dynamics. The middle staff shows the vocal line with lyrics. The bottom staff shows the bass line. The score is in 3/4 time, with key changes indicated by E♭, F major/A♭, and B♭/G major.

4

E♭ E♭ A♭

Beau-ti-ful dream - er, wake un-to me, _____
Beau-ti-ful dream - er, out on the sea _____

7

B♭ E♭

Star - light and dew - drops are wait - ing for thee:
Mer-maids are chant - ing the wild lo - re - lei; _____

© 1862

Beautiful Dreamer. Stephen Collins Foster

Beautiful dreamer, wake unto me,...
Starlight and dewdrops are waiting for thee;...
Sounds of the rude world, heard in the day,...
Lull'd by the moonlight have all pass'd away!...
Beautiful dreamer, queen of my song,...
List while I woo thee with soft melody;...
Gone are the cares of life's busy throng,...
Beautiful dreamer, awake unto me!...
Beautiful dreamer, awake unto me!...

Beautiful dreamer, out on the sea,...
Mermaids are chanting the wild lorelie;...
Over the streamlet vapors are borne,...
Waiting to fade at the bright coming morn....
Beautiful dreamer, beam on my heart,...
E'en as the morn on the streamlet and sea;...
Then will all clouds of sorrow depart,...
Beautiful dreamer, awake unto me!...
Beautiful dreamer, awake unto me!...

特定非営利活動法人 全日本シニアアンサンブル連盟
平成24年度 第3回理事会議事録

1 日 時 平成24年11月25日（日）13：30～16：30
 2 場 所 東京都港区新橋5-5-1 IMCビル会議室
 3 参加者 芹澤昭仁 理事長 鈴木基司 副理事長 高橋昭五 副理事長
 萩原充行 副理事長 林 将人 理事 清水玲子 監事 上原成介 監事 7名
 委任状 岡村斎能 副理事長 尼子和世 理事 佐野敬次 理事 堤 通能 理事 穴倉和夫 理事
 濱田文宏 理事 6名

4 議長及び議事録署名人の選出

司会・進行役 事務局 戸田武夫より、議長に理事長 芹澤昭仁
 議事録署名人には清水玲子、上原成介両監事を選出したいとの提案があり、
 全員異議なく承認、当人もこれを承諾し直ちに議事に入った。

5 審議事項

- 第1号議案 平成24年度事業方針の件
 - A 日フィル指導者による オーケストラの公開レッスンと合奏
 - B 中国での国際親善としての演奏旅行
- 第2号議案 第12回全国大会（宇都宮）進捗状況の件
- 第3号議案 平成24年度総会の件
- 第4号議案 『ひびきあい』第53号の編集に関する件
- 第5号議案 その他 情報交換（五色桜の会・各団の行事等）

6 議事経過の概要と決議の結果

第1号議案

A案 日フィル指導者による オーケストラの公開レッスンと合奏の件
 担当の林理事遅参のため本議案は理事到着次第討議することとした。

B案 中国演奏旅行に関する件

芹澤： 日中文化交流協会を通じて、天津市人民対外友好協会の紹介で天津東方老年大学より受け入れ
 の回答あったが、日中國交関係が緊迫化したため、10月末に高橋、萩原両副理事長を下見調査に派遣予定の処、先方より訪中は暫く待って欲しいとの申し出あり。事情やむを得ないので様子見の状態である。11月末には交流協会を通じて再プッシュする予定である。

高橋： 25年6月実施するとなると、参加者募集、曲目決定、編曲、指揮者等25/2までには決める必要あり。

萩原： 11月末の再プッシュの結果をみてから、検討したい。

高橋： 足立では、参加希望者は少ない。それにキーボードが問題である。先方が日本へ来てくれれば、全国大会への客演という対応もある。

鈴木： 本計画が中止となつても、連盟参加の皆さんには理解され、異議のないところであるから一旦白紙に戻したら如何かと思う。

萩原： 台湾・韓国は話を進めやすい。

芹澤： 種々ご意見あるところですが、11月末の再プッシュの結果をみて皆様にお計りしたい。

ここで林理事も着席されたので議案A日本フィル指導者によるオーケストラ公開レッスンと合奏の件

林： 計画の概要

開催日：平成25年4月16日（火） AM10：00～PM6：00

会場：杉並公会堂グランサロン

指導指揮：山下進三（日本フィルハーモニーOB・ピオラ奏者）曲目：クラシカルなもの

人数：50名 会費：2,000円

楽器編成：弦楽器・木管楽器

レッスン時間：3時間のあと合同演奏と懇親会（指導・指揮者を交えて）

萩原： 受講生募集のセールスポイントは何か？

林： 他楽団員との交流、合奏の楽しさ、普段とちがう指揮者による音楽の作り方、表現方法等の経験ができること。

萩原： 「楽しさ」ですね。

林： 早急に曲目を決め、募集をかけたい。会費は参加者の数により上下する。

芹澤： この企画は連盟はじめてのものにつき、兎に角一度やって実績をつくりたい。各団代表は是非自ら参加すると共に団員に参加を呼びかけて欲しい。

第2号議案 全シ連創立15周年記念第12回全国大会（宇都宮）進捗状況の件。

鈴木：全国大会に向け諸準備として、公演申請と公演手続は完了。

確認事項として、連盟事務局と実行楽団（宇都宮）の役割分担の明確化

イ：開催通知文書の発送・参加呼びかけと取り纏め

ロ：ステージの配分

ハ：経理・会計など

萩原：千葉大会は全て千葉県連の中で実行委員会を立ち上げて自己完結した。

高橋：従来から、一楽団では限度があるので、イは事務局が担当、ロは双方が連絡を密にして立案、ハは大会に關しては主宰楽団が担当とした。

芹澤：同一指揮者による楽団は極力合同演奏による演奏時間の捻出にも配慮を頂きたい。

鈴木：事務局並びに加盟楽団の協力を要請する。

芹澤：本大会の開催費用の一部として、芸術文化振興基金へ助成金を申請した。

別紙交付要望書（写）の通り38万円申請。審査を待っている状態である。

萩原：前回の千葉大会でも申請したが受けられなかった。今回創立15周年という「周年事業」が審査側にアピールするのではないか。

又、日本財団へのアプローチもすべきである。文化庁の支援は一回毎に対して、日本財団の方は継続的な支援体制になっている模様。

芹澤：丸林先生からのご助言もあり、早急に着手したい。

第3号議案 平成24年度総会について

芹澤：従来総会は、4月或いは5月に開催してきたが、東京都の所管部署並びに法務局から「事業年度終了日から3ヶ月以内に決算・監査承認を経て総会を開催すべきである」との指摘を受けた。この指摘に基づき、

開催日：平成25年3月20日（水・祝）

会場：調布市民文化会館「たづくり」10階1002号学習室

議題：理事の補充、25年度の事業計画、同予算の策定等

となるが、明年2月開催予定の第1回理事会にて討議、検討して上程する。今日ご出席の皆さんはこの日程を踏まえて、今後の予定を立てられたい。

第4号議案 『ひびきあい』第53号の編集に関する件

芹澤：長年事務局長として「ひびきあい」の編集に携わって来られた高橋副理事長にご自身の「音楽と私」寄稿を12月15日を目処にお願いしたい。

高橋副理事長これを了承した。

第5号議案 その他 情報交換

萩原：ホームページを開設したが活発な活用がなされていない。今日欠席の濱田理事（H P メンテ）も落胆している。どしどし情報を送って欲しい。但し、必ず電子データで願いたい。

芹澤：自楽団の演奏予定、演奏結果報告その他情報発信をお願いする。

賛助会員の丸林三千代さまの処遇について検討の結果

定款にも定めがある「顧問」として連盟をみていただくこととし、明年の総会にかけることに決定。

(文中 敬称 役職 略)

平成24年11月25日

特定非営利活動法人 全日本シニアアンサンブル連盟

平成24年度第3回理事会に於いて

議長 芹澤昭仁

議事録署名人 清水玲子

議事録署名人 上原成介

平成24年度賛助会員 (敬称略)

平成24年12月現在

【個人】 1口 5000円

【団体】 1口 10000円

丸林実千代 (2口)	(有)星ハウジング (2口)
芹澤昭仁 (3口)	
清水玲子 (1口)	
尼子和世 (8口)	

ご支援ありがとうございました。今年も皆様のご協力をお願いいたします。

参加団体一覧表 (敬称略)

平成24年12月現在

番 号	団 体 名	代 表 者
1	足立シニアアンサンブル	高橋昭五
2	アンサンブル・ポニーかつしか	上原成介
3	アンサンブルシーガル横浜	堤 通能
4	豊中シルバーアンサンブル	上山宏子
5	宇都宮シルバーアンサンブル	鈴木基司
6	リード・フレンド・マリーネ	小美濃秀行
7	調布シニアアンサンブル	山本英二
8	我孫子シニアアンサンブル	牧野直彦
9	シニアアンサンブル・スルーザヨコスカ	清水玲子
10	杉並シニアアンサンブル	林 将人
11	デューク・グリーン・サウンド	佐野敬次
12	千葉シニアアンサンブル	川野正彦
13	船橋シニアアンサンブル	穴倉和夫
14	東京コモド室内アンサンブル	瀬尾崇子
15	市川シニアアンサンブル	岡村齊能
16	市原シニアアンサンブル	多見谷正子
17	四街道シニアアンサンブル	佐々木信一
18	シニアアンサンブルあすなろ	北田春夫
19	習志野シニアアンサンブル	月岡喜久雄

● 次回理事会のお知らせ：2月17日（日）13:00～新橋IMCビル 会議室

● 第16回定期総会のお知らせ：3月20日（水・春分の日）13:00～調布市民文化会館"たづくり"学習室

編集後記

皆様明けましておめでとうございます。

今年が皆様によりまして、穏やかな良い年でありますようにと祈りを込めて遅ればせながら新年のご挨拶を申し上げます。昨年は、大震災の復興元年とも言うべき年でしたが、多難な一年であったと思います。

連盟関係でも二川博様のご逝去は、ご家族様には勿論のこと、所属楽団アンサンブル・ポニーかつしか様、また全シ連にとりましても大きな痛手です。

アマチュア演奏家の第一人者のご冥福を心からお祈りいたします。

しかしながら一面、山中教授のノーベル賞受賞をはじめロンドンオリンピックでの意外とも思われる競技での日本人選手の活躍等に明るい展望が期待できます。

さて「ひびきあい」第53号を発刊するにあたり、年末・年始の多忙な時期に寄稿をお願いしました高橋様（足立シニア）、堤様（シーガル横浜）、高萩様（船橋シニア）、月岡様（習志野シニア）、ありがとうございました。

また濱田様（市原シニア）には前第52号に引き続いで編集・レイアウト等からホームページへのアップまですべてをお引き受け下さり本当にありがとうございました。（戸田・小林 共記）